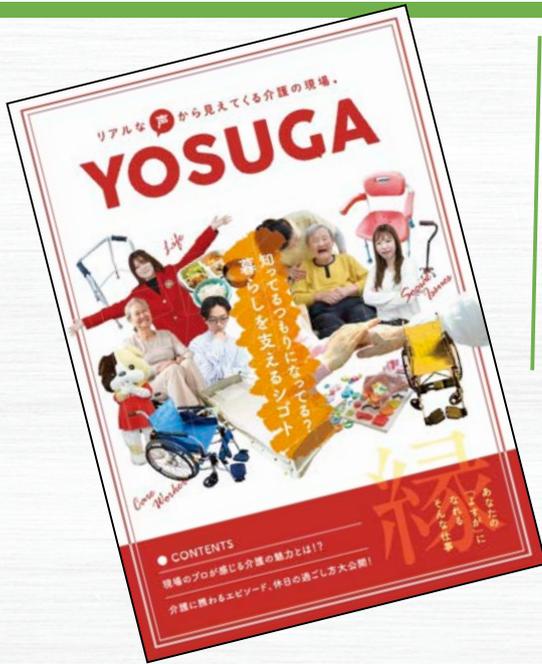


アクティブ福祉

第49号
2022.7

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



リアルな声から
介護の仕事の魅力を伝える
「YOSUGA」
発行!

東京の介護って
すばらしいグランプリ
2021 入賞作品



写真部門：「ほら、今日も特別な日」
(サンライズ大泉/嶋崎 美咲氏)



動画部門：【密着取材で見た】
介護の本質・本当の魅力-杉本さんの一日
(ひのでホーム)



動画部門：介護の楽しさについて話してみた
(文京昭和高齢者在宅サービスセンター)

P2-3 特集

東京ケアリーダーズが介護の魅力を本で発信！ 「YOSUGA」発行座談会

P4-7 東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設 **2施設**

アクティブ福祉 in 東京 '21 優秀賞受賞施設
「東京令和館 中野」「神明園」

P8 新時代旋風

創意工夫の運用改善による省エネ実践

P9 Join Us! イベントのご案内

アクティブ福祉 in 東京 '22 の開催について

P10 ブロック活動だより

渋谷区「福祉・介護のお仕事フェア in しぶや 2021」

p11...●専門委員会リレートーク
第16回：施設管理検討委員会

p12...●養護分科会トピックス

p13...●軽費分科会トピックス

p14...●センター分科会トピックス

p15...●職員研修会トピックス

p16...●私の心に残るエピソード

p16...●編集後記

f
Facebook
更新中!



高齡協
ウェブサイト



Instagram



Twitter

高齡協
会長
@koureikyuo



YouTube



東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会



特集

東京ケアリーダーズの本『YOSUGA』発行 座談会

介護の仕事の魅力を発信するため、2016年に結成された介護現場の若手職員によるユニット「東京ケアリーダーズ」。本年、活動の一環として、冊子「リアルな声から見えてくる介護の現場 YOSUGA」を刊行しました。本特集ではメンバーの^{ひろせ せふみか}広瀬史夏さん、^{さくらだ こうへい}櫻田康平さん、^{いのうえはるか}井上悠夏さんにYOSUGAに込められた想いや今後の活用についてお話を伺いました。



東京ケアリーダーズの皆さん（上段左：白十字ホーム 広瀬 史夏さん、上段右：ひのでホーム 櫻田 康平さん、下段：マザアス日野 井上 悠夏さん）



「YOSUGA」誌面

——この度はYOSUGAの刊行おめでとうございます。作成の経緯をお聞かせください

広瀬 2019年の研究大会「アクティブ福祉 in 東京」ではケアリーダーズによる相談コーナーを設けましたが、学生から介護職のやりがいや給与面などについて聞かれる場面がしばしばありました。そのような疑問や悩みに対して、ケアリーダーズがお応えする物を作りたいということがきっかけとなり、発行に至りました。

櫻田 また、2020年からのコロナ禍により、ケアリーダーズの活動が制限され、イベントなどで外に出て直接発信することが難しくなりました。そのため、世間に介護の魅力をPRするための新たな媒体にしたいという一面もあります。

——「YOSUGA」というネーミングの由来を教えてください

「よすが」は漢字で書くと「縁」です。「縁」は「よすが」のほか、「えん」「えにし」とも読みます。「縁」という漢字は、古くは「身や心のよりどころとすること。頼りとすること。手がかり」という意味を持ち合わせているそうです。そのため、今回の冊子のタイトルにふさわしい、と、多数決で決まりました。

——YOSUGAのコンセプトはどのようなものですか

井上 介護に抱かれがちなネガティブイメージを、明るくとらえてもらえるようにすることです。また、若い方が積極的に介護の仕事に関われるよう、介護現場のリアルを知ってもらえる機会にできればと思います。

広瀬 真面目に1ページ目から通して読むというよりは、気軽に手に取ってさらっと読める本にしたいと考えました。介護に関する本の中では新しいタイプのもので、今後のケアリーダーズの活動の起爆剤にしていきたいと思います。

——冊子の特徴をお聞かせください

広瀬 テーマごとに章を分けて現場のエピソードを紹介しています。その時の気分で興味のあるところをピックアップして読める構成です。

櫻田 イラストや写真が多く、読みやすく仕上がっていると思います。メンバーが恥ずかしがりながら撮影した写真も見てほしいですね。

——YOSUGAを通じて、どのような人たちに、どんなことを伝えていきたいですか

櫻田 介護職を目指す人や進路として選択肢にされている人に対して、魅力ある仕事だと伝えていきたいです。また、現場で働く方には、他の方の介護の仕事に対する経験や感情を共有でき、励みになる冊子になっていると思います。

広瀬 私自身もそうでしたが、学生は食事、入浴、排せつ、といったいわゆる「介護」の場面のイメージを強く持っていて、24時間365日「生活」をケアしているというイメージは薄いのかなと思っています。そのような場面も紹介しており、より具体的に介護の仕事の実際を伝えていきたいです。

—— 編集作業はどのように進めましたか

広瀬 会員施設の現場職員を対象にウェブ上で「介護の魅力アンケート」を実施し、467件の回答を頂きました。その回答をもとに、エピソードを抜粋して編集しています。

—— 編集を通じて見えてきたことをお聞かせください

井上 他の施設でも自身と似た思いや悩みを抱えている方がいるんだとわかり、仕事の上で葛藤があるのは私だけじゃないと心強く感じました。

櫻田 エピソードの中には私も自身の施設で取り組んでみたいと思えるような事例もあり、勉強になりました。

—— 周囲の方に読んでもらった際の反応はいかがでしたか

井上 介護職の母親、看護職の妹はエピソードに共感していました。また、祖父母は、「数々のエピソードに登場する介護職の人たちがいるからこそ、私たちの生活が支えられ楽しく過ごせるようになっていてありがたい。」と話していました。

櫻田 職場の同僚に回覧してもらっていますが、読んでいて介護の魅力ややりがいを実感できたという声があがりました。私の写真に対するコメントもよく頂きます（笑）。

広瀬 職場では、新人職員の研修の一環として使用しています。介護では、夜勤や看取りなど乗り越えるべき壁ともいえる仕事があり、最初は不安になります。ですが、YOSUGAの中には同じ不安を持つ方の話もあり、「一人じゃない」と実感できて気張りすぎずに仕事ができることにつながるのではないかなと感じます。祖母が特養に入所するという友人にも読んでもらいましたが、外からだと思えづらい施設の中がわかるようだったと話していました。「百歳のプライドチキン」のエピソードが印象的だったそうです。



—— 今後 YOSUGA をどのように使っていきたいですか

井上 介護に関わる YouTuber やインフルエンサーの方とコラボして、YOSUGA を広められたら面白いかなと考えています。

広瀬 コロナ禍が落ち着いてリアルイベントにケアリーダーズが集まれるようになったときに活用していきたいと思います。また、社会全体が福祉に興味を持ってもらえるよう、まずは周囲の方に読んでもらえるよう広めていきたいです。

—— 最後に一言、PRをお願いします

櫻田 パラパラ読みでもいいので、気になるところだけでも読んでもらえたらうれしいです。また、ご感想を頂ければさらにうれしいです。

井上 介護のことを全く知らない人や介護職を志す人、介護をしている人に少しでも介護のことを伝えられればと思います。

広瀬 ケアリーダーズがおよそ2年をかけて作成しました。編集者は10名程度ですが、その背景には本当に多くの方の協力があって「YOSUGA」が出来ています。ぜひ手に取って読んでください。また、東京ケアリーダーズはメンバーを募集しています。ご興味のある方はぜひご連絡ください！

YOSUGA 概要

定価 495 円（税込み） A5 サイズ 60 ページ
販売方法：東京都社会福祉協議会図書係ホームページで購入できるほか、都内の一部の大手書店で販売しています。

東社協図書係ホームページ▶
（ご注文はこちらから）



東京ケアリーダーズが行く！

うわさの
施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約1200施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。毎回「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、お話を伺います。

その13

2021年開催 第16回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京 '21」優秀賞
社会福祉法人東京武尊会 特別養護老人ホーム 東京令和館 中野

常食がもたらす入居者の楽しみの効果と、さらなる食生活への改善

2020年の開設時より自立支援介護の理論を重視し、その実践の一つとして全員常食化の取り組みを行った東京令和館 中野。利用者を元気にする取り組みが経費削減につながり、利用者に還元される点が評価され「アクティブ福祉'21」で優秀賞を獲得しました。今回は、発表者である管理栄養士の松山貴恵さんにお話を伺いました。

研究の
流れ

課題…学術顧問が提唱する自立支援介護理論に基づき、全員常食化を目指す
取組…ミールラウンドで利用者の声や食事の様子を把握し、多職種で意見交換
経過…食事形態改善で経費が大幅減。その予算で感染症対策に機能性ヨーグルトを提供
結果…利用者が食事を楽しめ、QOLが向上。下剤服用がなくなり、減薬につながった

—— 取り組みのきっかけをお聞かせください

当法人では元国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授に学術顧問を依頼しており、その自立支援介護理論に基づき水分・食事・運動・排泄の4つの基本ケアを実践しています。食事におけるスローガンとして、全員経口常食化を掲げており、その実現のために多職種で連携を行ったことがきっかけです。

—— 最初にどのようなことを行いましたか

ミールラウンドにより、摂食状況に加え、食事の味、好みなどの利用者の要望を確認したり、咀嚼・嚥下状態や食べている状態も確認しています。また、栄養士だけの視点に偏らないよう、介護士にもヒアリング。例えば食材の切り方や食べるときの姿勢、食器の工夫などで、食事の様子が変わるという意見や、対応での相談・要望等も意見交換して収集するようにしています。こうした情報をまとめ、看護師やリハビリスタッフへフィードバックし、情報共有と共に相談して改善策を考えました。

—— 介護職員にとって多職種との意見交換はとても良い刺激になります。多職種の意見から見えてきたことと、その対応をお聞かせください

常食化もそうですが、食べられない方は義歯が合っていない、口の機能が十分に使えていないというケースが比較的多く見られます。当施設では、看護師を通して歯科医・歯科衛生士に調整を依頼しました。さらに口腔機能を整えたうえで、自力でどの程度食べられるか様子を介護士や看護師と共に見ながら、よく噛んでもらうように促します。段々と噛めるようになって意外と上手に食べられることが多くなります。次に食事時に箸やスプーン等を持って食べるようにします。介助は本当に困っているときのみ行いました。



東京令和館 中野
松山貴恵さん



東京ケアリーダーズ
あかね苑 荒井裕介さん



食事の様子

—— 常食化の成果を教えてください

利用者はよりおいしさを感じられるようになり、食事のスピードが上がって残飯が減りました。次第に外食や出前などで好きなものを食べたいという生活意欲が出てきました。元気に食事をする様子を見て、家族が外出に誘ったり好きな物を持参するなど、積極的になる例もみられました。

—— 研究発表の中でもご利用者の喜んでいる姿がとても印象的でした。機能性ヨーグルトを提供するきっかけをお聞かせください

常食化により月に約12万円の経費節減ができました。2020年の開設時、新型コロナウイルスが感染拡大しており、他の感染症も併せて防ぐため何かできないかと考えました。そこで、感染症に対抗するべく、食事でも免疫力を高め、利用者を体の中から強くしようと思いました。削減した経費を元手にし、まず11月～3月の冬季に免疫力を高める機能性ヨーグルトを毎日提供する取り組みを始めました。

—— 自立支援の取り組みがコスト削減につながり、ご利用者に還元されていることが素晴らしいと思います。ヨーグルトの提供で工夫したことはありますか

入所時、ヨーグルトに苦手意識を持ち、食べてくれない利用者もいました。そこで、フルーツを入れる、ヨーグルト牛乳にするなどの工夫をしました。次第に慣れ、習慣的に食べてくれるようになりました。介護士が提供する上で一人ひとりに合わせて様々な工夫をしてくれたおかげで、今はほとんどの人が食べられるようになりました。現在は、黒蜜きなこヨーグルトが好評です。

—— その効果を教えてください

免疫機能の改善効果のおかげが、発熱しても入院するケースはなく、回復も早かったように感じます。腸内環境が整ったのか、次第に下剤の使用が少なくなり減薬にもつながりました。これにより職員が排尿・排便への意識改善、生理機能や水分量、食量などに以前より関心をもつようになったように思います。入居者の良好な身体状態につながることを感じ、職員の意識も向上したように思いました。

—— 取り組みで大変だったことはありますか

総務部からは経費をどうするのか、有効性はあるのかという指摘がありました。その点に対しては在庫管理や常食化により浮いた経費を活用することや、メーカーに他施設の有効性を示す事例やデータを提供してもらい説得することで実現に至りました。

—— 取り組みのその後の状況はいかがですか

取り組みはじめた冬季期間は入院者なしの結果でした。また、排便コントロールに効果を発揮したケースもあり、冬季のみの予定だったヨーグルトは、以降、毎日継続して提供しています。夏場の脳梗塞や脱水症状の予防や、秋～冬季にかけての諸々の感染症予防にも活かしているのではないかなと思います。職員食でも出しており、毎日おいしく免疫力を高めています（笑）

—— 今後の目標をお聞かせください

私は管理栄養士として、できるだけ自力でおいしく食べることを通じて、食事でも健康になってほしいと考えています。そうは言っても、管理栄養士ひとりの力では到底不可能です。介護・看護・リハビリ・相談員・ケアマネジャー・調理・総務など各職種間での相互連携・協力が不可欠です。今後も取り組みの推進のために、食事や水分の摂取量や排便の状況と、体調や心身機能の関連性などを引き続き見ていきたいと思っています。本人が最期を迎えるときまで人生を全うしてもらえよう、これからも勉強を続けていきたいと思っています。

—— 自立支援の一環として始めた今回の取り組みによって、想像以上の相乗効果が得られたと感じます。今後、多くの介護施設が東京令和館 中野をモデルケースにされると思います。本日はありがとうございました。

社会福祉法人東京武尊会 特別養護老人ホーム 東京令和館 中野

所在地：〒165-0022 東京都中野区江古田4-35-5 Tel：03-3386-8038

東京令和館 中野
ホームページ▶



■取材 東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ 荒井 裕介（あかね苑）

■記録・編集 東京新聞 木下 聡文

その14

2021年開催 第16回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京 '21」優秀賞
 社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園

事業継続計画の実効性を高める取り組み

熊本地震の被災施設の体験談をきっかけに、事業継続計画（以下、BCP）を全職員がしっかりと実行できるようリニューアルに取り組んだ神明園。災害に対する意識の高さや長年の積み重ねによる成果が評価され「アクティブ福祉'21」で優秀賞を獲得しました。

今回は、発表者である井上祐介さん（^{いのうえゆうすけ} 役務部生活支援係主任）と共同研究者の中村直人さん（^{なかむらなおと} 役務部長、防災管理者）にお話を伺いました。

研究の流れ

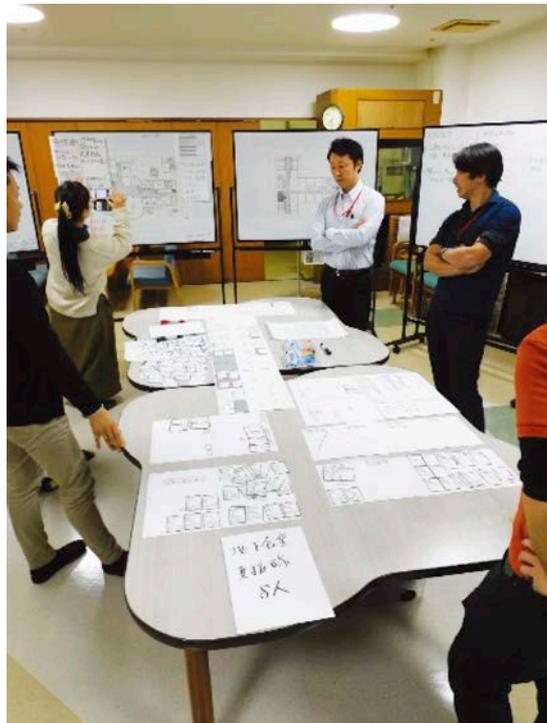
- 課題**…熊本地震の被災施設の体験談を聞き、従来のBCPの課題が浮き彫りに
- 取組**…BCPの実行性を高めるため、情報を整理し全職員が迅速に対応できる様式を検討
- 経過**…従来のBCP更新とともに、視覚的にわかりやすいフローチャート式の掲示物を作成
- 結果**…職員に対する意識調査で、被災時の不安感が軽減された

—— 取り組みのきっかけをお聞かせください

現在、災害時相互応援協定を結んでいる熊本県の施設が協定締結以前（2016年）に熊本地震で被災し、その体験談を伺いました。被災時の対応を伺う中で、当施設のBCPは情報量が多く、職員が必要な情報にたどり着けず迅速に行動できない可能性があると感じたため、リニューアルに取り組みました。

—— これまでの防災に関する取り組みはどのようなものがありましたか

通常の月例防災訓練などを行っていました。しかし、頻度や職員の意識といったところではなかなかうまく進まない状況でした。その後、2016年以降は災害や避難所運営のシミュレーションプログラム「KIZUKI」と「HUG」を導入しより実践的な訓練を目指しました。また、これらの研修・訓練を経て、災害想定時の不安は漠然としていて、何がわからないのかわからないということが問題だと感じ、それを具体化しなければならぬと感じました。



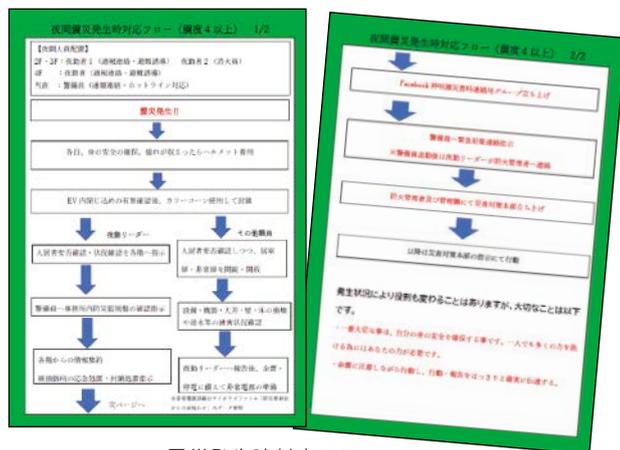
HUG訓練の一コマ

—— 具体的にどのような取り組みをしましたか

BCPの内容を再確認し、修正や加筆が必要な箇所を抽出しました。また、迅速に対応できる表示様式を検討しました。それと同時に職員26名に対し、BCPのリニューアル前後で2回ヒアリングを行いました。

—— 新たなBCPの特徴はどのようなものでしょうか

最大の特徴は視覚的にわかりやすいフローチャート式の掲示物を作成したことです。火災、地震、水害、感染症の4カテゴリで作成し、それぞれ2ページにまとめています。これらは各フロアで職員が常に目にする場所に掲示しています。



震災発生時対応フロー

—— 私の施設でも 2024 年の策定義務化に向けて BCP 見直しが検討されています。今後の参考のため、今回の研究で意識したことをお聞かせください

情報量の多いマニュアルを意識して覚えようとする、身構えてしまって逆に覚えられなくなってしまうと感じます。そのため、ベテランから新入職員まで、全員がぱっと見て、すぐに行動できるよう仕組みを作ることを意識しました。

—— リニューアル前後のヒアリングでの職員の反応はいかがでしたか

リニューアル前の調査では、特に入職3年未満の職員からあまり理解できていないという声が上がっており、入職3～10年の職員でも理解度にばらつきがありました。リニューアル後は、理解できていないという声は大きく減りました。また、スタッフが少ない夜間の発災への不安がフローチャートにより軽減されたという声も上がりました。

—— そのほかの取り組みについてお聞かせください

備蓄品の管理を見直し、期限があるものはローリングストックできるようにしています。また、一般職員は備蓄品がどこにあり、どう使うか把握しておくことは難しいため、フローチャートや訓練で補っています。ストアハウスという防災倉庫を設けており、そこでは当施設だけでなく地域の備蓄も保管しています。災害時の調理機能があり、平時はカフェや地域公益事業に活用しています。

—— 今回の研究から見えてきた課題と、今後の目標をお聞かせください

今回の研究では施設内の対応を検証しましたが、実際の被災時は避難者の受け入れも課題です。地域の掲示板などで発信してはいますが、被災時の避難者の動きは不確定要素も多く想定が及んでいません。そのような想定外の部分をできるだけ想定内とすることが今後の目標です。

—— 研究に対するアドバイスをお願いします

新しいことを始めるためにはお金も時間も必要なため、経営層をうまく巻き込むことが必要だと思います。そのため、施設理念や運営方針などを把握することが、実現への近道でしょう。また、防災に関しては、ミーティングで「今から半日停電するとしたらどうなるか」といった想像して話し合ってみることも面白いかもしれません。

—— 最後に、施設の PR ポイントをお聞かせください

当施設では三大介護に加えてアクティビティケアを一つの柱としており、笑顔のあふれる施設です。1法人1施設で運営していますので職員間でフランクに話ができて、上司とも気軽に相談できます。新入職員も施設を身近に感じられる指導を心がけています。また、SNSを活用した発信にも力を入れています。



左より：神明園 中村直人さん、井上祐介さん 右：東京ケアリーダーズ あかね苑 荒井裕介さん

—— 神明園の情報発信は、同じく介護の魅力を発信するケアリーダーズが手本とするべきものだと感じます。また、BCPについては私の施設の職員も理解度が足りない部分もあるかもしれないと感じ、再検討の必要があると思いました。本日はありがとうございました。

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園

所在地：〒205-0023 東京都羽村市神明台4-2-2 TEL：042-579-2711

■取材 東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ 荒井 裕介（あかね苑）

■記録・編集 東京新聞 木下 聡文

神明園
ホームページ▶



新時代旋風

創意工夫の運用改善による省エネ実践

社会福祉法人白百合会 特別養護老人ホーム 恩方ホーム

施設長 たなか やすひろ
田中 康弘

設備管理課 ひらおか ちから
平岡 力

この度、恩方ホームでは、『2020年度（令和2年度）省エネ大賞 省エネ事例部門 省エネルギーセンター会長賞』を受賞しましたことに続き、『令和3年度エネルギー使用合理化シンポジウム（経済産業省 関東経済産業局主催）』や地域のケーブルテレビやコミュニティ新聞等で、省エネ実践の取り組みについて、ご紹介させていただきました。〔※共にダイキン工業（株）との協業による〕

取組の背景と職員全員参加

当事業所では以前から節電対策を行ってきましたが、手応えが得られませんでした。その理由は「省エネ基準がわからない」、「取り組みが続かない」、「効果とメリットを感じにくい」でした。平成28年にダイキン工業（株）に依頼した「省エネ診断」を基に、職員全員で「我慢しない」、「無理しない」、「諦めない」をスローガンに、平成30年度から取り組みを始めました。

現状の見直しと対策の再構築、機器の交換

取り組みの前から電気使用量・デマンド監視装置はありましたが、単なる目安で活用もされていませんでした。再度、使用状態を見直したところ、運用管理とともに職員教育の必要性も感じました（皮肉にも前の平成29年度が共に過去最大になっていました）。

ダイキン工業（株）と診断結果を元に使用量が多い物を洗い出し、運用改善と改修を計画・立案しました。「照明」と「空調機」が多く、「照明のLED化」、「空調機の室外機改修、及び高機能コントローラー装置」を補助金も活用し導入しました。また空調は、場所と季節に応じた設定と運転時間を設定し自動化することで、職員への負担軽減にもなりました。

職員の意識改革、そして成果

システムと体制が整った後は「職員の意識改革」に着手し、「温度と湿度の違い」、「使用量は金額化」、「季節や階層（フロア別）で基準を決める」など職員研修やポスターでの周知と、「家庭の目線」での啓発を行うことで職員も皆が実感、「それなら（自分にも）できる」という習慣化に成功しました。成果としてCO₂排出量削減35%（相当）の結果と、入居者様の快適性向上も実現できました。



恩方ホーム（左）田中施設長（右）設備管理課 平岡氏



高機能コントローラー説明

特別養護老人ホーム恩方
ホームページ▶



Join us!

イベントのご案内

アクティブ福祉 in 東京 '22

第17回
高齢者福祉実践・研究大会

Active Fukushi



社会福祉法人たま紫水会
特別養護老人ホーム みたか紫水園

相談支援グループ マネジャー **みぞぐち あきふみ**
溝口 暁史

今回が17回目の開催となりますが、「アクティブ福祉 in 東京って何?」という方もまだまだ多いと思います。

各施設で実践している取り組みや研究しているケアは、かなり多くあるのではないのでしょうか。そして、その取り組みが良い結果に結びついている事も数多くあると思います。そのような良い結果を発表するのがこの大会です。

また、その発表を参加者として受講し、自施設へ持ち帰り実践する。そしてその施設も良いケアができるようになっていく。

このように、東京都全体におけるケアの質の向上を図るのが、この大会の目的です。今回のスローガンとでなっている「起こそう、シナジーケア」は、この大会の目的にピッタリですね。

第14回大会(2019年)までは京王プラザホテルで行っていましたが、第16回大会(2021年)はWEB配信という形で大会を開催しました。※第15回は中止。

今回は前年度と同様にWEB配信となりますが、発表者は前年度の会場収録から、今年度はZOOMでの収録となりました。この事により、収録自体も集まらずに行う事により、発表者側に対しても感染防止の配慮に努めています。

WEB配信なので、施設全体で申し込んでいただければ、施設職員ひとりひとりがパソコンなどで視聴する事が可能です。ひとつひとつの発表は15分なので、長時間パソコンの前に座っていなければならないという事ありません。是非、この大会を施設内研修として取り入れていただきたいと思います。

多くの皆様のご応募をお待ちしております。

▶大会情報、募集などの詳細は高齢協ウェブサイトへ
<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/taikai/2022-activefukushi.html>



ブロック活動だより

第2回 福祉・介護のおしごとフェア in しぶや 2021

～ 渋谷区合同就職フェアを開催しました～

渋谷区特養施設長連絡会

代表 ^{いりえ} 入江 ^{ゆうすけ} 祐介

(パール代官山 施設長)

●第1回よりも規模を拡大して開催

令和3年11月20日(土)、中央ブロックに属する渋谷区内の特別養護老人ホーム施設長連絡会が主催者となり、渋谷区役所及びハローワーク渋谷との共催により、『第2回 福祉・介護のおしごとフェア in しぶや 2021』を開催しました。今回で第2回目の開催となりましたが、前回(令和3年3月27日)の特別養護老人ホーム10施設に加え、介護老人保健施設2施設と障害者施設2施設の計14施設に拡大する形となりました。

●イベントを通じて施設・事業所間や行政との連携・協力を強化

当日は、渋谷区長：長谷部健様の挨拶から始まり、主催者挨拶・各施設からの施設紹介(挨拶&施設紹介動画)を経て、面接・施設説明会を開始。同時に、パラマウントベッド株式会社・株式会社ヤマシタコーポレーション・キューピー株式会社の展示ブースなどのイベントを開催。前回は上回る来場者数で、47名の参加者、面接・相談件数100件の実績となりました。

当初目標としていた参加者100名には届きませんでした。本イベントを通して、行政との連携強化や法人の垣根を超え区内14施設の絆が深まったことが大きな財産です。今後も毎年定例で合同就職フェアを開催していく予定です。

世田谷区や目黒区の先駆的な取り組みを参考に、渋谷区でもと実施した合同就職フェア。介護人材難が続く中、施設自らアクションを起こしていくことが重要です。福祉・介護業界全体が次世代を担う若者世代にとって輝かしい業界と成り得るよう、今後も法人の垣根を超えた協力体制を築き上げていきたいと願っています。福祉新聞社も取材に来場いただきましたが、本活動が他の区市町村内～東京都全体へと広がっていくことを期待しています。



▲渋谷区長：長谷部健様のご挨拶



▲参加13法人(14施設)からの施設紹介



▲展示ブース

専門委員会リレートーク

施設管理検討委員会

施設管理検討委員長

社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑

施設長 たかはし みゆき
高橋 三行



●令和4年度活動内容

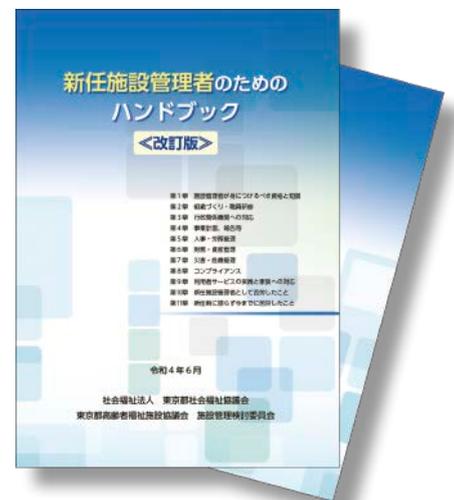
施設管理検討委員会では、「新任施設管理者のためのハンドブック《改訂版》」を発刊しました。

今年度は、このハンドブックを使い、「経営」をキーワードにしながら3回にわたって「事業継続のためにやるべきこと」『経営の原則』を確認するとともに、事業経営の最前線にいる管理者（施設長）に「自事業所の現実」を考える研修を企画しました。

委員会で毎年企画をしている「施設長としての悩みや困りごとについて語り合う」研修会もこの3回の研修会に取り入れ、他管理者との交流（グループ討議）を通じて「施設管理者としての使命と役割」を再認識しつつ視座をさらに高めることを研修の到達点とします。

新任施設管理者のみならず、ベテラン施設長や施設長が推薦する管理者の参加をお待ちしています。（経験年数不問）

●定員：70名 ●参加費：5,000円



●研修のテーマ

原則、集合体の開催を予定します。コロナ禍の状況（緊急事態宣言発令等）に応じオンラインへの変更を検討します。

- ・第1回 7月12日（火）13：30～17：00 研究社英語センタービル地下2階
「管理者の使命と役割 ～法人存続に必要な4本柱を強固にする」
 - ・第2回 9月20日（火）13：30～17：00 飯田橋レインボービル7階
「組織作りは風土づくり ～やせた土地から肥えた土地への転換」
 - ・第3回 11月22日（火）13：30～17：00 飯田橋セントラルプラザ12階
「事業継続させるための逆算から作られる施策づくり ～経営とは職員を守るもの」
- 講義＋グループ討議を2セットで構成します。



地域に貢献出来る養護老人ホーム を目指して

社会福祉法人同胞互助会 養護老人ホーム偕生園

はま なか とし あき
施設長 **濱中 俊明**

偕生園は昭和34年に東京都昭島市田中町に開設され、今年63周年を迎えた定員140名の養護老人ホームです。多摩川を望む高台に建ち3階の食堂からは多摩川丘陵に広がる街並みを、晴れた日には富士山を展望する事が出来ます。

【養護老人ホームの役割】

2000年4月の介護保険制度施行により、高齢者施設サービスは「措置」から「契約」に大きく舵を切りました。養護老人ホームは「介護保険施設」との「契約」が困難な方（貧困、孤立、虐待等）のセーフティーネット（措置施設）としての役割を継続して担っております。

【偕生園での取組み】

当施設では、ここ10年で介護保険認定者が定員の32%から54%と増加し、更なる増加が見込まれます。介護が必要な方には地域の介護保険サービスを積極的にご利用いただき、医療は法人併設の診療所医師にお願いしております。

最近は「家庭内虐待」「住居立退き」「退院先が無い」等切羽詰まったご相談が増えています。切迫したご要望にお応えするのが養護老人ホームの役割です。受付は365日体制です。いつでもご遠慮なくご相談下さい。



リラックスできる大浴場



移動スーパーでのお買い物





広報活動と入居待機者

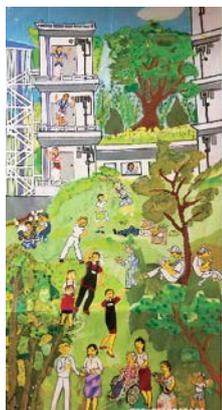
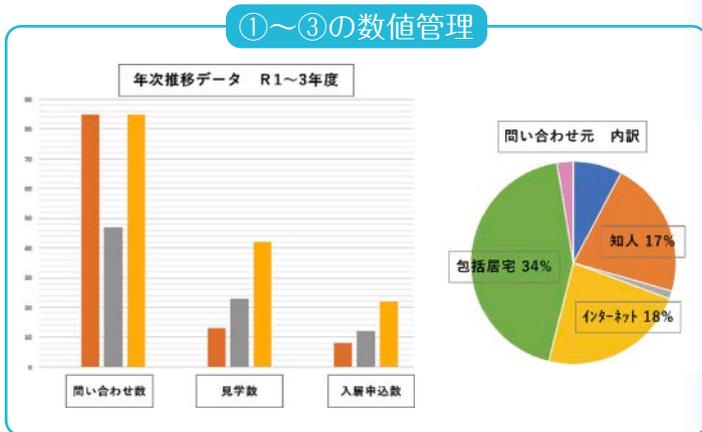
社会福祉法人福音会
軽費老人ホーム A 型 町田愛信園

主任生活相談員 **いわさき かずき** **岩崎 和希**

昨年度はご入居者の高齢・虚弱化と共に介護施設に移られる方々が急増し、度重なる入退居業務に対応しつつ、広報活動にも尽力して参りました。結果、入居待機者が例年の3倍となり、当地域での周知を一步進めることができました。広報活動の経過は次の通りです。

- ①数年度前までさかのぼり、入居待機者となるまでのプロセスとその数値を可視化しました。どういう広報活動が実際に待機に繋がったのか、またそのうちに実際に入居できたのがどのくらいであったのか、客観的な現状把握と根拠をもつことができました。
- ②各数値の割合と、その背景と課題を分析しました。「よくわからないけど入居を申し込む人が一定数いて何とかなる」と運任せにせず、長期間の入居待機者の状況を把握すると共に「確実な入居待機者の確保」を目指して、新規の入居問い合わせ段階から地道に、丁寧に対応して参りました。
- ③広報活動は当法人HPのトピックスに生活支援の状況をこまめに掲載する一方、外部関係機関と連携致しました。制度を知らない人にとってもわかりやすく読みたくなるようなパンフレットを木万屋商会様と作成し、自治体窓口において頂いたり、包括や居宅支援事業所へ配布致しました。

高齢ひとり暮らしに不安を抱える方が多い中で、セーフティネットの軽費老人ホームを少しでも多くの方々に知って頂けるように今後も働きかけて参りたいと思います。



町田愛信園

福音会

木万屋商会様と作ったパンフレット



葡萄狩り行事でご利用者と

軽費老人ホーム A 型
町田愛信園ホームページ▶





コロナ禍における世代間交流の 取り組み

社会福祉法人秋川あすなろ会
あすなろみんなの家

理事長 統括施設長 **今 裕 司**

隣接・近接の保育園との交流

あすなろみんなの家は、あきる野市にある定員40人のデイサービスです。当法人が運営する秋川あすなろ保育園（隣接）や西秋留保育園（車で約10分）の乳幼児との交流は、平成3年の開設以来の取り組みです。行事等での交流にとどまらず、お互いの存在が日常に溶け込み、職員はもちろん利用者・園児の中に浸透していました。



園庭は共有。目を向ければ子ども達の自然な姿が見られます。こちらの様子を覗きに来る子どももいます。

新型コロナウイルス感染症による交流の中断

新型コロナウイルス感染症は、施設間・世代間の往来を完全遮断に追い込みました。インフルエンザ流行時など一時的な中断はありましたが、ここまで長期間“切り離された”ことはありませんでした。

当施設が昨年5月にクラスターを経験したことから、施設間の往来には慎重にならざるを得ず、いまだに直接的な交流はほぼできていません。

コロナ禍からコロナ後にむけて

それでも、世代間の交流は高齢者・乳幼児双方にとって必要な活動だとの考えは変わっていません。「お互いの存在を認識」し、「自分たちが楽しむだけでなく、子ども達・お年寄りに喜んでもらう」「誰かの役に立つ」「節目に立ち会い、ともに喜び励ます」といった活動が、それぞれの生活を活性化し、成長につながると考えているからです。



卒園式後、紙吹雪でお見送り
(コロナ禍では数少ない直接的なふれあい)



「お店屋さんごっこ」に手作り作品で出店（オンライン参加）
ひ孫さんとの交流も実現しています

手紙や映像の交換といった従前からの取り組みに加え、オンラインシステムを使った交流なども取り組み始めています。他施設の実践例なども参考にしながら交流の“手段”が増えたことは、コロナ禍の数少ない効果とも言えます。

これからも乳幼児（お年寄り）が身近な存在となる、相手に喜ばれる・役に立っていることが実感できるといった“目標”を達成するための取り組みを続けていきます。

あすなろみんなの家
ホームページ▶





ケアマネジャー研修委員会の活動について

社会福祉法人池上長寿園

おおかわ なおと
経営本部次長 **大川 直人**

ケアマネジャー研修委員会は、東京都高齢者福祉施設協議会に所属する特養のケアマネジャーを中心に構成されています。委員会の開催は年4回程度となっており、研修の企画、立案、運営に関する内容が主な議題となっています。

ケアマネジメントの好循環を目指して

ケアマネジャーとしての職務にあたり、様々な情報を収集する動きは欠かせません。LIFE や適切なケアマネジメント手法などに代表される制度等の改定などの動きについては正しい理解にスピードや正確さが求められます。

当委員会では、ケアマネジャーにとって必要な研修を企画しますので、素早く正確な情報をキャッチアップできます。さらに研修会の立案、運営を通じた自組織への還元、ケアマネジャーとしての「説明力」や「論理的思考」などの訓練にも繋がり、全体的なケアマネジメントサイクルを正しく組み立てる一助にもなります。

研修の企画、立案、運営を通じて、ケアマネジャーとしての幅を一緒に広げていきませんか。皆さんの参加をぜひ、お待ちしております！

読者モニターからのご意見（一部抜粋）

—第48号— 読者モニターの皆様からいただいたご意見を紹介します！

▶リモート会議もできない特養もあります。とてもタイムリーで濃い特集と思いました。

▶毎回このコーナーで学ぶことが多いと感じている。養護老人ホームについてまだまだ知らないことがあると気づかされ、取り組みを知る良いきっかけになっている。

▶大事な内容だと思いますが、字が多く読みづらかったです。

▶最後の「心に残るエピソード」に感動と共感を得ました。本人が望む最後に職員としてどうやって支えられるのか。また、自分の家族ならどうするか考えさせられました。

▶分かりやすい内容でしたが、大きな印象を受けることはありませんでした。

▶いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。

令和4年度 読者モニター募集

読者モニターへのご応募ありがとうございます。引き続き、紙面づくりにご協力いただく方を数名、追加募集いたします。

依頼内容

機関誌に関する客観的なご意見やご感想を伺います。WEB上の回答フォームから入力いただく予定です。（必要時間：15分程度）

- (1) 依頼回数：令和4年度内 全4回（令和4年7月・8月・12月、令和5年2月）予定 ※今後ご応募の方には全3回
- (2) 対象：東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 会員施設・事業所 職員（全20名程度予定）

(3) 謝礼：**クオカード 1回あたり 500円**

応募方法

次のいずれかの方法

- (1) 右記QRコードから**応募フォームに直接アクセス**
- (2) 東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト トップページから
トップページ→「機関誌・タブロイド判」をクリック→**申し込みフォームより入力**



応募締切 令和4年 **8月31日**（水）まで ※応募多数の場合、抽選により決定いたします。

私の心に残るエピソード

『コロナ禍での食事の楽しみを』

特別養護老人ホームあかつき苑
管理栄養士

かっ
勝 谷 ほ の か

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当施設では2020年2月より面会や外出が禁止となりました。

毎週の外出、休日の外泊が習慣となっていた入居者の方々の状況は一変し、そこからすでに2年以上が経とうとしています。

外部を利用した食事レクリエーションや施設内での集団レクリエーションが中止となる中、何か食事を楽しんでいただけることはないか調理員と検討しました。もちろん、毎月の行事食は喜んでいただけているのですがもう少し刺激のあるものはないかな、と考えた結果、普段のおやつに提供するおやつを豪華にしてみよう！ということになりました。

テーブルクロス、飲み物のメニュー表等、全て介護職員さんが用意してくれました。

職員からみたら「ただのおやつ」と思う

方もいるかもしれません。しかし、面会中止により御家族からの差し入れがほとんどなくなってしまった入居者の方々にとってはとても喜んでいただける結果となりました。

新型コロナウイルスの状況が落ち着かない中、今後も入居者の方々に楽しんでいただけるような企画を考えていきたいと思えます。



編集後記

東京ケアリーダーズの皆さま、YOSUGA刊行おめでとうございます。

今回の特集は、YOSUGA発行座談会です。コロナ禍の中、本当に大変な時期に、東京ケアリーダーズが中心となり、完成した本なので是非、いろいろな方に読んでもらいたいと思います。

さて、この機関誌も、気が付けば何と49号になります。昨年度から、読者モニターの方の皆さまのご意見も反映させてもらい、少しずつ内容も良くなっているのではないかと広報アドバイザーの村井先生からも評価をいただけるようになりました。

2022年も、少しでも多くの方に読んでもらえる機関誌になるように、初心に帰り、読者の気持ちになって、広報戦略推進委員会全体で、機関誌を創っていきたいと思います。49号からの新たな取り組みとして、「つわさの施設」の掲載が2施設になります。これからも進化する「アクティブ福祉」にご期待下さい。

1ヶ月早い夏の到来で、電気代、ガス代、いろいろな物が高くなっていますが、皆さまの施設は大丈夫でしょうか。厳しい状況が続きますが、創意工夫で乗り切ってくださいませよう。

社会福祉法人

台東区社会福祉事業団

特別養護老人ホーム三ノ輪

施設長 勝又 宏

アクティブ福祉